

韓国語オノマトペの用言的用法について¹⁾

李 殷娥 (イ・ウナ)

About a use of a declinable word of Korean onomatopoeia

Eunah LEE

Abstract : I clarified the use of a declinable word of Korean onomatopoeia by this report. When Korean onomatopoeia is used as a declinable word (a verb, an adjective), the most productive suffix is “-거리다” /kôrida/, “-대다” /tæda/, “-하다” /hada/ and “-이다” /ida/. An onomatopoeia verb can be derived by “-거리다” /kôrida/, “-대다” /tæda/, “-하다” /hada/, “-이다” /ida/. There are overwhelmingly many cases that a complete frequentative gets in “-하다” making an onomatopoeia verb. Use frequency is the highest in “-거리다” model, and monomorphism onomatopoeia is accompanied because “-거리다” has a meaning of repetition. In addition, one syllable onomatopoeia and the onomatopoeia word basis which ends with vowel sound are not accompanied. “-대다” is “-거리다” and equivalent suffix, but “-거리다” is 8 times higher than “-대다” in use frequency. “-이다” sticks to onomatopoeia of the monomorphism which ends with “/k/”, “/ng/”, “/l/”, but there is the most onomatopoeia which ends with “/k/”.

An onomatopoeia adjective can be derived by “-하다” /hada/. In many cases, as for the “-하다” type onomatopoeia adjective, a pair with the monomorphism stem of a word / frequentative stem of a word is possible, and a frequentative means emphasis of a meaning of monomorphism, a plurality of an object.

1.はじめに

韓国語のオノマトペは文中における機能の観点から、副詞的用法、用言的用法(動詞・形容詞)、名詞的用法の3つの品詞別用法に分類することができる。

- (1) 갓 나서부터 밥을 먹고 큰 아기는 무럭무럭 자라나 두 달이 지나니 어느 새 커다란 아이가 되었습니다.

(生まれてすぐにご飯を食べて育った赤ちゃんはすくすく育って二ヶ月が過ぎるといつの間にか大きな子供になりました。) 『童話』

아이들이 서당에서 우르르 몰려 나왔습니다.

(子供達が寺小屋からわあと出て来ました。) 『童話』

흘끗 돌아본 신부가 빙그레 웃었다.

(ちらと振り向いた神父がにっこりと笑った。) 『父』

- (2) 큰 아들은 너무도 놀라 가슴이 두근두근해서 말에게로 다가가 보았습니다.
(長男はあまりにも驚いて胸がどきどきして馬に近づいて行って見ました。) 『童話』

어느날은 춘희네 갔다가 비틀거리며 들어오시더니 서양 술을 한잔 얻어 먹었더니 입에선 단데 몹시 취한다고 했다.

(ある日、チュニのところからふらつく足取りで帰って来て西洋の酒を一杯飲んだが、甘いけど、酔うと言った。) 『彼の家』

“조금 전 우리 영감이 어떤 놈의 총에 맞아 죽어가는데 얼른 감자를 캐가지고 가 영감에게 먹여야 하네.” 하며 몹시 허둥대었습니다. (“少し前私の夫があるやつ銃に撃たれて死んでいくので早くジャガイモを掘って持って行って夫に食べさせなければならぬ。”と非常に慌てました。) 『童話』

영기는 머리를 긁적이며 미안한 표정을 지었습니다. (ヨンギは頭を掻きながらすまない表情を浮かべました。) 『創作童話』

- (3) 그는 관대한 사람이었지만 늘글늘글한 데도 있었다.
(彼は寛大な人だったが、ふてぶてしいところもあった。) 『彼の家』

환유가 반들반들한 머리통을 감싸안으며 울부짖었다.(ファニユがつるつるしている頭を抱えながら泣き叫んだ。) 『手紙』

총각은 불룩한 보자기를 다락방에 처박아 놓았습니다.

(男の人は膨らんだ風呂敷を屋根裏部屋に押し込めて置いた。) 『童話』

- (4) 제가 그 깜짝쇼의 주인공이라면 얼마나 신나겠습니까?
(私はそのびっくりショーの主人公であればどんなに楽しいことでしょう。) 『手紙』

정식으로 허락된 건 아니지만 군복을 입을 수 있고 꼬부랑글씨로 된 신분증이 나오니까 요령만 좋으면 큰소리 쳐가면서 검문을 피할 수 있었다.

(正式に認められたわけではないが、軍服が着られるし横文字の身分証明書が発行されるから要領さえよければ大きな顔をして検問を避けることができた。) 『彼の家』

찰칵 찰칵 하는 깜박이 소리가 엔진 소리에 섞여 들려오기 시작했다.

(カチャカチャというウインカーの音がエンジンの音に混じって聞こえ始めた。) 『手紙』

(1)의 예의 「무럭무럭」(스ुक스ुक), 「우르르」(わあつと), 「홀끗」(ちらつと), 「빙그레」(にっこり)는 副詞として用いられているオノマトペの例である。韓国語において最も基本的な用法は(1)의 예のような副詞的用法である。オノマトペが副詞的に用いられる場合、基本的に単一形や反復形をそのままの形で副詞として用いるのが圧倒的に多い。また副詞接尾辞²⁾などと結合して副詞としての機能を果たす場合もある。

(2) 「두근두근해서」(どきどきして), 「비틀거리며」(ふらつく), 「허둥대었습니다」(慌てました), 「긁적이며」(掻きながら)는 動詞として用いられるオノマトペの例である。(3)의 예의 「늘글늘글한」(ふてぶてしい), 「반들반들한」(つるつるしている), 「불룩한」(膨らんだ)는 形容詞として用いられた例である。(2)や(3)의 いずれの場合もオノマトペの語基に適切な接尾辞を付けることによりオノマトペ動詞、オノマトペ形容詞を派生した例である。

韓国語ではオノマトペがそのままの形で名詞的に用いられることは少ない。(4)의 예의 「깜짝쇼」(びっくりシ

ョー), 「꼬부랑글씨」(横文字)は「깜짝」(びっくりするようす), 「꼬부랑」(曲がりくねっているようす)のオノマトペにそれぞれ「쇼」(ショー), 「글씨」(文字)の結合による複合名詞である。一方, 「깜박이」(ウィンカー)はオノマトペ「깜박」(光などが明滅するようす)に名詞形成語尾の「-이」を付けた形である。

以上のように, 韓国語のオノマトペには副詞、動詞、形容詞、名詞の品詞別用法がある。本稿ではこれらの品詞別用法の中から韓国語オノマトペの用言的用法(動詞、形容詞)に焦点をあてて、検討することにする。

2. 韓国語の用言オノマトペ

韓国語の用言は動詞と形容詞であり、用言オノマトペにもオノマトペ動詞、オノマトペ形容詞がある。韓国語のオノマトペを用言として用いる場合、オノマトペの語幹あるいは語基に何らかの用言形成語尾をつけないければならない。韓国語の用言オノマトペの派生過程は非常に単純な作業を経て作ることができる。オノマトペのそれ自体あるいはその一部の要素に、動詞化、形容詞化をもたらす接尾辞を付けることによってオノマトペ動詞、オノマトペ形容詞が派生する。韓国語の用言オノマトペを派生する生産的な接尾辞として、「-거리다」/kôrida/, 「-대다」/tæda/, 「-하다」/hada/, 「-이다」/ida/の4種をあげることができる。

- (5) 누구 올 사람이 없는데 기웃거리며 미자 언니가 천천히 일어서려는데 낮익은 목소리가 들렸다. (訪ねて来る人が誰もいないのにしきりに覗きながらミジャさんがゆっくり立ち上がるころ耳慣れた声が聞こえた。) 『ボンスニオンニ』

정인은 입을 비죽비죽하며 금방이라도 울음을 터뜨릴 듯한 표정을 지었다. (チョンインは唇をぴくぴくさせながら今すぐにでも泣きそうな表情を浮かべた。) 『手紙』

정수는 웬지 가슴이 철렁했고 주위의 눈치까지 살폈다. (チョンスはなぜかどきっとして人目を気にした。) 『父』

남편이 산에 나무를 하러 갔다가 발밑에서 번쩍이는 노오란 금덩어리를 발견했습니다. (夫が山にたきぎを取りに行き、足元でぴかぴか光る黄色の金塊を見つけました。) 『童話』

원래 덤벼대는 성격에다가 돈을 손에 쥐자 좋아서 날뛰며 집으로 달려오다가 그만 잃어버리고 말았습니다. (もともとせかせかする性格で、その上お金が手に入るとうれしくて飛んで家に走って帰って来る途中でなくしてしまいました。) 『童話』

느릿느릿한 걸음걸이로 접시에 다가가 우유를 싹싹 핥아 먹었습니다. (のろのろした歩き方でお皿に近づき牛乳をきれいに飲んだ。) 『創作童話』

그의 몸이 스치는 순간, 액상 치약의 박하 냄새와 함께 섬뜩한 한기가 끼쳐왔다. (彼の身体が触れた瞬間、液状歯磨き粉のハッカのにおいとともひやっとする寒気を感じた。) 『小仏』

(5)の例の「기웃거리며」(首を傾げながら)、「비죽비죽하며」(ぴくぴくさせながら)、「철렁했고」(どきっとして)、「번쩍이는」(ぴかぴか光る)、「덤벼대는」(せかせかする)はオノマトペ動詞の例であり、「느릿느릿한」(のろのろした)、「섬뜩한」(ひやっとする)はオノマトペ形容詞の例である。

「-거리다」、「-대다」、「-하다」、「-이다」を辞書では次のように定義している。

国立国語研究院編 (1999) 『標準国語大辞典』

「-거리다」: (동작 또는 상태를 나타내는 일부 어근 뒤에 붙어) ‘그런 상태가 잇따라 계속됨’의 뜻을 더하고 동사를

만드는 접미사.=대다

((動作あるいは状態を表す一部の語根について)「そのような状態が引き続き続く」の意味を表わし、動詞を作る接尾辞 =「- 대다」: 稿者訳)

「- 대다」: = - 거리다

「- 하다」:

- ① (일부 명사 뒤에 붙어) 동사를 만드는 접미사.
((一部の名詞について)動詞をつくる接尾辞: 稿者訳)
- ② (일부 명사 뒤에 붙어) 형용사를 만드는 접미사.
((一部の名詞について)形容詞をつくる接尾辞: 稿者訳)
- ③ (의성·의태어 뒤에 붙어) 동사나 형용사를 만드는 접미사.
((擬聲・擬態語について)動詞や形容詞をつくる接尾辞: 稿者訳)
- ④ (의성·의태어 이외의 일부 성상 부사 뒤에 붙어) 동사나 형용사를 만드는 접미사.
((擬聲・擬態語以外の一部の性相副詞について)動詞や形容詞をつくる接尾辞: 稿者訳)
- ⑤ (몇몇 어근 뒤에 붙어) 동사나 형용사를 만드는 접미사.
((幾つかの語根について)動詞や形容詞をつくる接尾辞: 稿者訳)
- ⑥ (몇몇 의존 명사 뒤에 붙어) 동사나 형용사를 만드는 접미사.
((幾つかの依存名詞について)動詞や形容詞をつくる接尾辞: 稿者訳)

「- 이다」: (동작 또는 상태를 나타내는 일부 어근 뒤에 붙어) 동사를 만드는 접미사.

((動作あるいは状態を表わす一部の語根について)動詞をつくる接尾辞: 稿者訳)

李基文監修 (1989) 『新国語辞典』

「- 거리다」: 의성어·의태어 뒤에 붙어 같은 동작을 잇달아 되풀이함을 뜻함

((擬聲語・擬態語について同じ動作を引き続き繰り返すことを意味する。: 稿者訳)

「- 대다」: = - 거리다

「- 하다」: ① 일부 명사 뒤에 붙어 그 말을 동사로 만들

(一部の名詞について動詞をつくる。: 稿者訳)

② 일부 의존 형태소에 붙어 형용사를 만들

(一部の依存形態素について形容詞をつくる。: 稿者訳)

③ 부사에 붙어 동사나 형용사를 만들

(副詞について動詞や形容詞をつくる。: 稿者訳)

「- 이다」: 「- 거리다」가 붙을 수 있는 시늉말 (부사) 어근에 붙어 그 말이 동사가 되게 함.

(「- 거리다」가つくオノマトペ (副詞) の語根について動詞をつくる。: 稿者訳)

油谷幸利他編 (1993) 『朝鮮語辞典』

「- 거리다」: (擬聲・擬態語またはそれに準ずる副詞に付いて動詞をつくって)同じ動作・状態などが繰り返されることを表わす: しきりに…する、めく、がる、…ぶる

「- 대다」=「- 거리다」

「- 하다」: ① 《動作性名詞に付いて》動詞をつくる。

② 《状態性名詞に付いて》形容詞をつくる。

③ 《副詞に付いて》動詞・形容詞をつくる。

「- 이다」: 副詞に付いて動詞をつくる語。

「- 거리다」はどの辞書でも繰り返す意味を持つ接尾辞として定義しており、語根に「- 거리다」をつけることにより反復、継続の意味を表わすことができる。「- 거리다」とまったく同じ意味として使われるのが、「- 대다」である。したがって、「- 거리다」がついたオノマトペはほとんどすべてにおいて「- 대다」に置き換えることができる。「- 하다」は一般的な用法と同様、動詞あるいは形容詞を形成する接尾辞である。そして「- 이다」は動詞を派生する接尾辞である。

3. 動 詞

韓国語のオノマトペ動詞を派生する接尾辞は様々なものがあるが、比較的に生産的な接尾辞としては「-거리다」、「-대다」、「-하다」、「-이다」の4種がある。

朴東根（1997:66）は、ハングル学会編（1992）『韓国語大辞典』に収録されているオノマトペについてどのタイプの用言オノマトペが可能であるかを調査した結果、次のような分布が得られたという。

表 1

タイプ	品詞	語数	計
하다型	動詞	3136	5510
	形容詞	2026	
	動詞・形容詞	348	
거리다型	自動詞	1024	2229
	他動詞	227	
	自動詞・他動詞	928	
대다型	動詞	2229	2229
이다型	動詞	401	401

オノマトペ動詞のうち最も少ないのは「-이다」型であるが、それでも401語というのはかなり生産性が高い。

しかし、実際の使用頻度の観点から見るとこれらのタイプの分布状況はかなり異なる。〈表2〉に示したように稿者は小説や童話などからオノマトペをタイプ別に調査して、次のような結果が得られた。

表 2

タイプ	品詞	用例数	小計
하다型	動詞	180(11.3%)	689(43.3%)
	形容詞	509(32%)	
거리다型	動詞		557(35%)
대다型	動詞		68(4.3%)
이다型	動詞		279(17.5%)
	計		1593(100%)

上記の二つの調査結果を比較すると、次のような違いが見られる。

- ①「-하다」型用言では、可能な動詞と可能な形容詞の比率がほぼ3：2（3484語：2374語³⁾）で動詞の方が多いのに対して、使用頻度は形容詞の方が動詞よりも約3倍程度（180語：509語）多い。
- ②可能な動詞のタイプとしては「-하다」型（3484語）が最も多く、以下「-거리다」型（2229語）・「-대다」型>「-이다」型（401語）の順であるが、使用頻度においては「-거리다」型（557語）が最も頻繁に用いられ、以下「-이다」型（279語）>「-하다」型（180語）>「-대다」型（68語）の順である。

3.1 「-하다」型

「-하다」型オノマトペ動詞は完全反復形(単純反復形)のオノマトペを語幹とするものが圧倒的に多く、その他に類音反復形語幹と単一形語幹に付く場合がある。

- (6) a) 깊은 바다 밑에서 온 의사는 오랜시간 진찰을 하더니 고개를 가웃가웃했습니다. (深い海の底から来た医者は長い間診察をすると首をしきりにかしげました。) 『童話』

나무꾼의 등 뒤에서 이상하게도 달그락달그락 하는 소리가 들려왔습니다.
(きこりの背後から奇妙なことにかたかたいう音が聞こえてきました。) 『童話』

덕보는 선비의 말을 듣고 고개를 끄덕끄덕했습니다. (トクボは学者の話の聞いて首をこくりとうなずきました。) 『童話』

상점 안을 기웃기웃 들여다보다 그 안에 들어가서는 이것저것 주물럭주물럭했습니다.
(店の中をしきりにのぞいてからその中に入ってあれこれしきりにいじりました。) 『童話』

- b) “아버지는 할아버지가 불쌍하지도 않으십니까?” 하고 불끈하여 외쳤습니다.
(“お父さんはおじいさんが可哀想じゃないんですか”とかっとなって叫びました。) 『童話』

시골 양반은 고개를 꾸벅하며, “그럼 가보겠습니다”. (田舎の方は首をぺこりとして、“それでは帰ります”。) 『童話』

불쑥 튀어나온 정수의 말소리에 남 박사는 가슴이 철렁했다. (いきなりしゃべるチョンスの声にナム博士はどきとした。) 『父』

어깨를 으쓱하며 서둘러 시장을 떠났습니다. (肩を怒らしながら慌てて市場を離れました。) 『童話』

토끼가 그 큰 귀를 쫑긋하며... (ウサギがその大きい耳をぴんと立てながら...) 『童話』

(6a) は完全反復形オノマトペを語幹とする「-하다」型動詞の用例であり、(6b) は単一形語幹を持つ動詞の用例である。反復形は動作の繰り返しや継続、単一形は一回だけの動作・現象を表わしている。したがって、次の(7) のような単一形語幹/完全反復形語幹のオノマトペ動詞の対ができる。

(7) 가웃하다	首をかしげる
가웃가웃하다	しきりに首をかしげる
달그락하다	かたっと/ことっと音がする
달그락달그락하다	かたかた/ことことする
끄덕하다	こくりとする
끄덕끄덕하다	こっくりこっくり/うつらうつらする
불끈하다	かっとする
불끈불끈하다	かっかっとする、しきりに腹を立てる
꾸벅하다	こっくり/ぺこりとする
꾸벅꾸벅하다	こっくりこっくり/ぺこぺこする

철렁하다	どきっと／びくっとする
철렁철렁하다	どきどきする／びくびくする
으쓱하다	肩を怒らす、得意になる
으쓱으쓱하다	しきりに肩を怒らす
쨍그랑하다	がちゃんと音がする
쨍그랑쨍그랑하다	がちゃんがちゃんと音がする

しかし、「-하다」型は次の (8a) のように単一形にしか「-하다」がつかない場合や (8b) のように完全反復形にしかつかない場合がある。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| (8) a) 감박하다 (うっかりする) | 발끈하다 (かっとする) |
| 뽀로통하다 (つんとしている) | 얼떨떨하다 (頭がふらつく) |
| 짱긱하다 (顔をしかめる) | 철렁하다 (どきっとする) |
| 더부룩하다 ((ひげなどが)ぼうぼうとしている) | |
| b) 반둥반둥하다 (ぶらぶらする) | 망설망설하다 (ぐずぐずする) |
| 짱알짱알하다 (だだをこねる) | 방글방글하다 (にこにこする) |
| 쫙잘쫙잘하다 (ぺちやくちゃしゃべる) | 쫙알쫙알하다 (ぶつぶつ言う) |
| 쫙달쫙달하다 (ぶつぶつ言う) | 허둥허둥하다 (あたふたする) |
| 허위적허위적하다 (じたばたする) | 허적허적하다 (ひっかき回す) |
| 허덕허덕하다 (あくせくする) | |

また (9) のように類音反復形に付く場合もある。

- (9) 그러자 바우는 오늘따라 싱글빙글하면서 공장장 아저씨에게 말을 걸었습니다.
(すると、バウは今日に限ってニコニコしながら工場長に話をかけました。) 『創作童話』

…한국 가서는 여기 있는 새끼 못 잊고, 그래서 들락날락하려면 비행기값만도 얼마나 말야.(…韓国に帰ってここにいる子供達が忘れられず、行ったり来たりしたら航空運賃だけでもどれだけかかるというの。) 『彼の家』

사위는 안절부절못했습니다.(婿はそわそわしました。) 『童話(チ)』⁴⁾

이모들은 처음 만날 땐 반갑게 웃다가 나중엔 곧잘 티격태격했다.(叔母たちは会ったときはうれしそうに笑うけれど、後からよく何だかんだと口げんかをした。) 『創作童話』

類音反復形の例として他に次のようなものがある。

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| (10) 곤드레만드레하다 (べろんべろんになる) | |
| 싱송송하다 (そわそわする) | 엄병덤병하다 (あたふたする) |
| 옥신각신하다 (ああだこうだと言う) | 얼기설기하다 (ごちゃごちゃする) |
| 우물쭈물하다 (もじもじする) | 왈각달각하다 (がちゃがちゃする) |

허겁지겁하다 (あたふたする)

허둥지둥하다 (あたふたする)

3. 2 「-거리다」型

「-거리다」型はオノマトペ動詞形成接尾辞の中で最も使用頻度が高い。

- (11) a) 안에는 불빛만 가물거릴 뿐 아무 대답이 없었습니다. (中には明かりがちらちらするばかりで、何の返事也没有ませんでした。) 『童話』

이 말을 들은 머슴은 그저 고개를 끄덕거릴 뿐이었습니다. (この言葉を聞いた下男はただ首をこっくりこっくりさせるばかりでした。) 『童話』

...어떤 선비가 무언가를 찾는 듯 두리번거리며 올라왔습니다. (...ある学者が何かを探すようにきよろきよろしながら上がってきました。) 『童話』

거인은 온 몸이 따끔거리려 잠을 이룰 수 없었습니다. (巨人は全身がちくちくして眠れませんでした。) 『童話』

이 말에 동네 사람들은 눈치를 채고 저마다 수군거렸습니다. (この話を聞いて村の人々は感づいてみなこそしました。) 『童話』

막내는 냇물을 건너려다가 물에 빠져 허위적거리는 스님을 발견했습니다. (末っ子は川を渡ろうとして、水に落ちてあつぷあつぷしているお坊さんを見つけました。) 『童話』

술에 취해 엉망이 된 정수는 갈지자걸음으로 비틀거렸다. (酒に酔いへべれけになったチョンスは千鳥足でふらついた。) 『父』

남 박사가 독백처럼 중얼거렸다. (ナム博士は独白のようにつぶやいた。) 『父』

미리부터 끝을 향해, 벼랑을 향해 허겁지겁 허둥거리는 모습들은 정말 보기 싫었다. (初めから終りに向かって、崖に向かってあたふたとあわてふためく姿は本当に見たくなかった。) 『父』

사내는 숨이 턱에 차 헐떡거리기 시작했다. (男は息が詰まって喘ぎ始めた。) 『父』

후들거리는 다리를 가누지 못한 그녀가 무너지듯 주방바닥에 주저앉았다. (わなわなする足を支えきれず彼女は崩れるように台所の床に座り込んだ。) 『父』

정수는 다시 노래를 흥얼거리며 휘청거리는 발길을 내딛기 시작했다. (チョンスは再び鼻歌を歌いながら、ふらふらする足取りで歩き始めた。) 『父』

사내는 고개를 가우똥거리가며 말끝을 흐렸다. (男はしきりに首をかしげながら言葉を濁した。) 『父』

- b) 두리번두리번거리다가, 눈에 잘 띄는 나뭇가지 위에 걸어놓았습니다. (きよろきよろしてから目立つ枝の上に掛けておきました。) 『童話』

정인은 두 사람에게 선뜻 들어오라는 말을 못하고 머뭇머뭇거리고만 있었다. (チョンインは二人に快く中に招き入れることができず、もじもじしていた。) 『手紙』

내가 알고 있던 모든 세상이, 저 화단의 꽃들처럼 식물성인 것에서 갑자기 살아 움직이고 꿈틀꿈틀거리는 동물성으로 변해가는 것처럼 느껴졌다. (私が知っていた世の中が、あの花壇の花のような植物性のものが突然生きて動き、によろよろとする動物性に変わっていくように感じた。)

『ボンスニオンニ』

어머니는 하루종일 중얼중얼거리며 정신이 나간 사람 같았다. (母親は一日中ぶつぶつぶやき、気が抜けた人のようだった。) 『ボンスニオンニ』

더듬더듬거리며 수박을 까 먹고 있는데 원두막에서 주인 할아버지 음성이 들려 왔습니다. (手探りでスイカを食べていたが、番小屋からおじいさんの声が聞こえて来ました。) 『創作童話』

옆에 있던 향주도 투덜투덜거렸습니다. (隣にいたヒャンジュもぶつぶつ言いました。) 『創作童話』

나희는 두 손을 앞으로 내밀고 허우적허우적거렸습니다. (ナヒは両手を前に出してしきりにもがきました。) 『創作童話』

- c) 깃발 바로 옆에서 갈갈거리는 웃음 소리가 들려왔습니다. (旗のすぐそばから、からから笑う笑い声が聞こえてきました。) 『童話』

멀리서 보니 호랑이가 얼음 위에 주저앉아 움직이지도 못하고 깁깁거리고 있었습니다. (遠くから見ると、トラが氷の上に座り込んで動くこともできずうんうんなっていました。) 『童話』

거인은 툭툭거리며 방에서 마루로 나와 벌렁 드러누웠습니다. (巨人はぶつぶつ言いながら部屋から板の間へ出て、ごろんと寝転びました。) 『童話』

...칙칙거리는 라디오소리에 이어 들리는 처음 듣는 음악... (…キーキーいうラジオの音に続いて聞こえるはじめて聞く音楽…) 『父』

포장마차 사내의 객적은 농담 몇 마디와 정수보다 몇 곱은 더 낄낄거리는 그의 공허한 웃음뿐이었지만... (屋台の男のつまらない冗談とチョンスより何倍もけらけら笑う彼の虚しい笑いだけだったが…) 『父』

그런데 머릿속은 점점 맑아지고 가슴은 자꾸만 쿵쿵거렸다. (しかし、頭の中はどんどん冴えて胸はしきりにどきどきした。) 『父』

「- 거리다」は反復の意味を内包する接尾辞であるので、一般に(11a)のような単一形オノマトペに付き、同じ動作・状態などが繰り返されることを表わす。通常「- 거리다」が付くと完全反復形はその反復性を失うが、(11b)のような完全反復形に「- 거리다」が付いた例は例外的な使い方である。「- 거리다」は基本的に母音で終わるオノマトペ語基には付かない⁵⁾。そして1音節のオノマトペにも付かず、(11c)の例のように必ず反復形に付くのである。これは「- 거리다」と「- 대다」の大きな違いであると思われる。

1音節反復形オノマトペに「- 거리다」が付いたものとして、他に次のようなものがある。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| (12) 갈갈거리다 (飢えてがつがつする) | 댕댕거리다 (かんかんと鳴る) |
| 멍멍거리다 (가んがんと音を立てる) | 멍멍거리다 (わんわんほえる) |
| 빵빵거리다 (ばんばんと音をたてる) | 뽁뽁거리다 (びいびい泣く) |
| 뽁뽁거리다 (ぎゃあぎゃあ泣く) | 실실거리다 (へらへら笑う) |
| 징징거리다 (ぶつぶつ言う) | 짹짹거리다 (ちゅっちゅつと舌を鳴らす) |
| 짹짹거리다 (ぼかぼかする) | 짹짹거리다 (ちえっちえつと舌打ちをする) |
| 짹짹거리다 (めそめそする) | 짹짹거리다 (がみがみ言う) |
| 짹짹거리다 (くちやくちや嘔む) | 짹짹거리다 (せかせかとほつつき回る) |
| 짹짹거리다 (舌打ちをしたり舌鼓を打つ) | 짹짹거리다 (羽振りよく暮す) |

쫄쫄거리다 (さらさら流れる)	뽄뽄거리다 (ざあざあと流れる)
쫄쫄거리다 (ちょろちょろと音をたてる)	씩씩거리다 (ずるずる引きずる)
찼찼거리다 (しくしく泣く)	캉캉거리다 (きゃんきゃんと吠える)
캐캐거리다 (かっかっ咳をする)	깡깡거리다 (キツネがこんこんと鳴く)
각각거리다 (가아가가아と声を出す)	쿨쿨거리다 (とくとくと流れ出る)
쿨쿨거리다 (すやすやと眠る)	쿵쿵거리다 (わんわんと吠える)
콕콕거리다 (ぶすつぶすつと刺す)	왈왈거리다 (ざあざあと流れ出る)
광광거리다 (どんどんと音がする)	쿨쿨거리다 (ぐうぐう寝る)
쿵쿵거리다 (どんどんと音がする)	퀵퀵거리다 (だくだくと流れ出る)
쿵쿵거리다 (くんくん鼻を鳴らす)	킁킁거리다 (くすくす笑う)
킬킬거리다 (くすくす忍び笑いをする)	깡깡거리다 (うんうんとうなる)
툭툭거리다 (ぶつぶつ言う)	땡땡거리다 (どんどんと音がする)
통통거리다 (どんどんと音がする)	팡팡거리다 (ばあんばあんと音がする)
평평거리다 (ぼんぼんと音がする)	퐁퐁거리다 (ふうふうと音がする)
하하거리다 (しきりにはたと笑う)	허허거리다 (はっはっはたと笑う)
헉헉거리다 (疲れて息を切らす)	헤헤거리다 (しきりにへへと笑う)
호호거리다 (しきりにほほと笑う)	흥흥거리다 (鼻をふがふがさせる)
후후거리다 (ふうふうする)	

「-거리다」型オノマトペは動作の反復・継続を表わす。したがって、「完全反復形オノマトペ+하다」のタイプのオノマトペ動詞とほとんど同じ意味を表わすことになる。

(13) 가물가물하다	~ 가물거리다	ちらちら／ゆらゆらする
가우똥가우똥하다	~ 가우똥거리다	しきりに首をかしげる
가웃가웃하다	~ 가웃거리다	しきりに首をかしげる
끄덕끄덕하다	~ 끄덕거리다	こっくりこっくり
꾸벅꾸벅하다	~ 꾸벅거리다	こっくりこっくり／ぺこぺこする
꿈쩍꿈쩍하다	~ 꿈쩍거리다	しきりにまばたきをする
نال름نال름하다	~ 나ल름거리다	舌をぺろぺろ出す
두리번두리번하다	~ 두리번거리다	きよろきよろする
달그락달그락하다	~ 달그락거리다	かたかた／ことことする
불끈불끈하다	~ 불끈거리다	かっかっとする、しきりに腹を立てる
비틀비틀하다	~ 비틀거리다	よろよろ／ふらふらする
수군수군하다	~ 수군거리다	ひそひそ話す、ささやく
서성서성하다	~ 서성거리다	うろうろ／そわそわする
으쓱으쓱하다	~ 으쓱거리다	しきりに肩を怒らす
중얼중얼하다	~ 중얼거리다	ぶつぶつつぶやく
쫄달쫄달하다	~ 쫄달거리다	ぶつぶつ言う
쫄잘쫄잘하다	~ 쫄잘거리다	ぺちゃくちゃしゃべる
짱알짱알하다	~ 짱알거리다	むずかる、だだをこねる

철렁철렁하다	～ 철렁거리다	どきどきする／びくびくする
허덕허덕하다	～ 허덕거리다	あえぐ、あくせくする
허위적허위적하다	～ 허위적거리다	じたばた／あっぷあっぷする
허적허적하다	～ 허적거리다	ひっかき回す
허둥허둥하다	～ 허둥거리다	おろおろ／あたふたする
헐떡헐떡하다	～ 헐떡거리다	しきりにあえぐ、ぜいぜいする
흥얼흥얼하다	～ 흥얼거리다	ふんふん鼻歌を歌う
휘청휘청하다	～ 휘청거리다	よろよろ／ふらふらする

この2つのタイプのオノマトペ動詞はほぼ同数存在するが、使用頻度は圧倒的に「-거리다」型の方が多い。それは、<表2>で見たように「-하다」型動詞全体の使用頻度を低める大きな要因となっているし、また、韓国語の反復形オノマトペの使用頻度を若干低めている原因でもある。

3.3 「-대다」型

「-대다」は「-거리다」と同等の価値を持つ接尾辞であるとみなされるので、単一形のオノマトペに付いて動作の反復・継続を表わす動詞をつくる。したがって、「-거리다」が付いたオノマトペはほとんどすべてにおいて「-대다」に置き換えることができる。

(14) 모두들 어찌 된 영문인지를 몰라 소곤대고 있었습니다.

(皆どうしたのか訳を知らずこそこそしていました。) 『童話』

속상한 일 기쁜 일을 조잘대며 떠들어 댄 것도 이 엄마 아빠였으니까요.

(悲しいことやうれしいことをぺちやくちゃしゃべったのもママ、パパだったから。) 『創作童話』

괜히 현금을 인출했다가 아내가 알게 되었을 때 변명거리를 찾느라 허둥대느니보다는 역시 그 편이 나을 듯 싶었다. (むやみに現金を引き出して、妻に知られた時に言い訳をしようとあわてふためくよりは、やはりそっちの方がましのようなうだった。) 『父』

물에 빠진 사람처럼 두 팔을 허우적대며 나는 벽을 붙들었다. (溺れた人のように両手をばたばたさせながら私は壁をつかんだ。) 「小仏」

물론 상대방 표정을 읽는 재주로 엉뚱하게 노름판이나 기웃대며 사는 사람도 있지만요. (もちろん、相手の表情を読む才能で突拍子もなく賭場をしきりにうろうろして暮らす人もいますけどね。) 「表情管理」⁶⁾

国立国語研究院編(1999)『標準国語大辞典』、李基文監修(1989)『新国語辞典』、油谷幸利他編(1993)『朝鮮語辞典』では「-거리다」と「-대다」の区別をしていない。しかし、延世大学校言語情報開発研究院編(1998)『延世韓国語辞典』では「-거리다」と「-대다」を次のように定義している。

「-거리다」: ① (흥내말의 뒤에 붙어) 그 소리나 동작이 잇달아 계속됨을 나타냄.

((オノマトペに付いて) 音や動作があいついで続くことを表わす。: 稿者訳)

② («거들먹’, ‘비아냥’ 따위의 말에 붙어) 그러한 행동을 늘 하는 것을 나타냄.

((‘いばる様子’, ‘皮肉の様子’などのことばについて) そのような行動を常に行うことを表わす。: 稿者訳)

「-대다」: ①어떤 소리를 여러 번 되풀이해서 내거나, 몹시 심하게 함을 나타냄.

(ある音を何度も繰り返すことや、それが非常にひどいことを表わす。: 稿者訳)

②어떤 움직임이나 행동을 되풀이하거나, 몹시 심하게 함을 나타냄.

(ある動作や行動を繰り返すことや、それが非常にひどいことを表わす。: 稿者訳)

「-거리다」と「-대다」のどちらも「音や行動が引き続き繰り返されることを表わす」ものとしているが、「-대다」は「その状態が非常にひどいことを表わす」ものとしている。

<表2>のように実際の使用頻度をみると、「-대다」型(68例)に比べて「-거리다」型(557例)は実に8倍以上にのぼっている。これは「-대다」型の表現が非標準語と見なされてきたことと「-거리다」に比べて「-대다」の方はやや否定的な意味を含んでいると考えていることによるものと思われる。

朴東根(1997:87ff)は韓国語話者21名を対象として「-거리다」と「-대다」について調査したところ、次のような結果が得られたとしている。

(15) a) 「-거리다」、「-대다」共に結合が自由なもの

글썩 (涙をためる)	꼬기작 (しわくちゃ)
꿈지락 (ゆっくり身動きする)	꾸물 (ぐずぐずする)
꿈적 (のろのろ)	끄덕 (こっくり)
넘실 (大きくうねる)	대롱 (ぶらりぶらり)
더듬 (手で探る)	덤병 (どぶん、あたふた)
두근 (どきどき)	뒤뚱 (よろよろ)
들썩 (かたかた、そわそわ)	복적 (がやがや)
비실 (よろよろ)	비틀 (よろよろ)
아른 (ちらちら、ゆらゆら)	울렁 (わくわく)
이글 (かっかど)	절뚝 (びっこを引く)
출썩 (ふざける)	출렁 (どぶん)
흐물 (とろとろ)	

b) 「-거리다」とは結合が自由であるが、「-대다」とは制約されるもの

가물 (ちらちら)	구불 (くねくね)
기우뚱 (ぐらぐら)	기웃 (しきりにのぞく)
근적 (ねばねば)	날름 (ぺろぺろ)
달랑 (りんりん)	따끔 (ひりひり)
말뚱 (まじまじと見る)	말랑 (ふわふわ、ぶよぶよ)
바글 (うようよ、ぐらぐら)	바들 (ぶるぶる)
반들 (つるつる)	반짝 (きらきら)
방긋 (にこにこ)	방글 (にこにこ)
오싹 (ぞくぞく)	절뚝 (びっこを引く)
후끈 (ぼかぼか)	흔들 (ゆらゆら)

c) 「-거리다」、「-대다」共に結合が制約されるもの

깡총 (ぴよんぴよん)	꼬깃 (しわくちゃ)
둥실 (ふわふわ)	뜨끈 (非常に熱い)
망실 (ぐずぐず、もじもじ)	몽뚝 (先が擦り切れて鋭くない)
발끈 (かっど)	벌떡 (ぱっと、すっくと)
불쑥 (突然)	아슬 (はらはら)

야금 (もぐもぐ)

오들 (ぶるぶる)

오물 (もぐもぐ、うようよ)

철철 (じゃあじゃあ、なみなみ)

3.4 「-이다」型

「-이다」も生産性の高いオノマトペ動詞形成接尾辞の1つであり、「-대다」に比べるとかなり使用頻度が高い。この接尾辞も単一形のオノマトペに付くのが普通である⁷⁾。通常「-이다」型動詞の語幹となるオノマトペは、「ㄱ」/k/、「ㅇ」/ng/、「ㄹ」/l/に終わるものに限られる。

(16) a) 호랑이는 고개를 끄덕이며 조금만 더 참아보리라 생각했습니다.(虎はうなずきながらもう少し我慢してもよいと思った。) 『童話』

다시 멍하니 시선을 돌리던 그의 눈빛이 반짝였다. (再びぼんやり視線を向けた彼の目が輝いた。) 『父』

영신이 공항 안 한쪽 모퉁이를 가리키며 귓속말로 속삭였다. (ヨンシンが空港の中の一隅を指しながら耳もとでささやいた。) 『父』

b) 정수는 그의 걸음이 휘청인다고 생각했다. (チョンスは彼の足がふらついていると思った。) 『父』

정우는 눈물을 글썽이며 인호의 손을 꼬옥 잡았습니다. (チョンウは涙ぐんでイノの手をぎゅっと握りました。) 『創作童話』

그날 밤 밤새 내가 자는 방의 문풍지가 떨리고 허술한 우리집 유리창이 그토록 덜렁이지만 않았더라면 아마 나는 그의 신음소리를 들었을까. (その夜、一晚中私が寝ている部屋の目張りが震え、古い我が家の窓があればどがたがたしなかったならば、恐らく私は彼のうめき声を聞いたのだろうか。) 『ボンヌニオンニ』

c) ...어디선가 많은 사람이 지껄이는 듯한 시끌시끌한 소리가 들려왔습니다. (...どこからか多くの人がぺちやくちゃしゃべっているような騒々しい声が聞こえてきた。) 『童話』

정수는 어색한 웃음만 지을 뿐 여전히 망설였다. (チョンスはぎこちない笑いを浮かべるだけで依然としてためらっていた。) 『父』

바람이 불 때마다 상큼한 향기가 병사의 코를 간질였다. (風が吹くたびに芳しい香りが兵士の鼻をくすぐった。) 『創作童話』

稿者は実際の使用例 279 語および辞書⁸⁾から得られた 57 語の「-이다」型オノマトペ動詞を「ㄱ」/k/、「ㅇ」/ng/、「ㄹ」/l/ 別に調査した。その結果、<表 3>のようにどちらも最も多いのは「ㄱ」/k/ で終わるオノマトペでそれぞれ全体の 75%以上を占めている。

表 3

	使用例 (279 語)	辞書 (57 語)
「ㄱ」/k/	216 語 (77.4%)	45 語 (78.9%)
「ㅇ」/ng/	30 語 (10.8%)	10 語 (17.5%)
「ㄹ」/l/	33 語 (11.8%)	2 語 (3.5%)

3.5 その他

朴東根 (1997:93ff) によれば、オノマトペ動詞を派生する接尾辞には上に挙げた 4 種の他に次のようなものがある。

- (17) a) - 떨다 /ttōlda/
 이지렁떨다 (とぼける) Cf. 이지렁스럽다 (しらんぷりしている)
 새살떨다 (むやみにはしゃぐ) < 새살새살 (にこにこ笑いながらぺちゃくちゃしゃべるようす)
- b) - 치다 /ch'ida/
 툇탁치다 (ことの善し悪しを考えないで除いてしまう) < 툇탁 (こつん)
- c) - 지다 /chida/
 꼬부라지다 (曲がる) < 꼬불꼬불 (くねくね)
 비틀어지다 (ねじれる) < 비틀비틀 (ふらふら/よろよろ)
 얼룩지다 (染みがつく、まだらになる) < 얼룩얼룩 (まだらに)
- d) - 트 (뜨) 리다 /t'û (ttû) rida/
 가든가뜨리다 (簡単にとりまとめる) < 가든가든 (気軽なさま)
 꼬부라뜨리다 (折り曲げる) < 꼬불꼬불 (くねくね)
 시들어뜨리다 (しおらせる) < 시들시들 (しおれているようす)
- e) - 그리다 /kūrida/
 가든그리다 (簡単にとりまとめる) < 가든가든 (気軽なさま)
 뺨당그리다 ((顔を横に振って) 嫌がる) < 뺨글뺨글 (ぐるぐる/くるくる)
 찡그리다 (顔をしかめる) < 찡긋찡긋 (顔をしきりにしかめるようす)
 쫑그리다 (耳などをまっすぐ立てる) < 쫑긋쫑긋 (びんと立つようす)
 쭈그리다 (しゃがむ) < 쭈글쭈글 (しわしわ)
- f) - 부리다 /purida/
 계정부리다 (不平がましい態度を取る) < 계정계정 (ぶつぶつ)
 이기죽부리다 (ねちねちといやみを言う) < 이기죽이기죽 (ねちねち)
- g) - 피우다 /p'iuda/
 거드름피우다 (いばる) < 거드럭거드럭 (偉そうに横柄な態度をとるようす)
 야지랑피우다 (そらとぼける) < 야기죽야기죽 (人をこばかにしてしゃべりまくるようす)

次のようなゼロ派生、つまりオノマトペを直接、動詞の語幹とする場合があるがこのような例は派生の方向は確定できないものが多い。

(18) 까불다 (ふざける)	⇔	까불까불 (軽率にふるまうようす)
구불다 (曲がっている)	⇔	구불구불 (くねくね)
더듬다 (手で探る)	⇔	더듬더듬 (手探りで)
뒹굴다 (寝転ぶ)	⇔	뒹굴뒹굴 (ごろごろ)
부풀다 (毛羽立つ)	⇔	부풀부풀 (毛羽立つようす)
비비다 (こする)	⇔	비빋비빋 (ごしごし)
비틀다 (ひねる)	⇔	비틀비틀 (よろよろ)
서슴다 (ためらう)	⇔	서슴서슴 (もじもじ)
시들다 (しぼむ)	⇔	시들시들 (しおれて生氣のないようす)
엉클다 (混ぜてかき乱す)	⇔	엉클엉클 (もつれる)
주무르다 (もむ)	⇔	주물럭주물럭 (もみもみ)
헝클다 ((物事を) からませる)	⇔	헝클헝클 (もつれる)
흔들다 (振る)	⇔	흔들흔들 (ゆらゆら)

4. 形容詞

韓国語のオノマトペ形容詞としては、可能形の語数においても使用頻度の語数においても接尾辞「-하다」に

よるものが圧倒的に多い。

- (19a) 새처럼 훨훨 날 수 있는 날개가 들어 있어서 이렇게 블록한 거야. (鳥のようにふわりふわりと飛べる翼が入っているからこんなにふっくらしているのよ。) 『創作童話』

소령은 가슴이 포근하다 못해 이제는 콧등까지 시큰했다. (ソリョンは胸が熱くなり、挙句に鼻までじーんとなった。) 『父』

내 꼬리가 어째서 이렇게 묵직하고 빠끈하지? (私のしっぽがなぜこんなにずっしりして重いのかな。) 『童話』

- b) 이것은 뜨끈뜨끈한 아랫목에 이불을 씌워 한 삼십일 가량 그대로 놔두면 저절로 깨어납니다. (これは暖かいオンドルの部屋の床に布団をかぶせて、30日くらいそのまま置いておくと自然にかえります。) 『童話』

마리는 밥물 잘 맞춰서 금방 한 고슬고슬한 밥을 세 그릇 뚫어요. (마리는ちょうどいい具合に炊いたふっくらとしたご飯を三杯盛りました。) 『創作童話』

우리는 그런 것들을 입맛 따라 굳것질하기 위해 질척질척한 바닥에 엉덩이가 닿을까봐 엉거주춤 불편하게 쭈그리고 앉아서도 그저 즐겁기만 했다. (私たちはそれらを食欲に応じて間食するためにどろどろしている床にお尻がつかないように中腰の姿勢でもただ楽しかった。) 『彼の家』

(19a) は単一形オノマトペを語幹とする例であり、(19b) は反復形オノマトペを語幹とする例である。多くの場合、次のように単一形語幹／反復形語幹の対ができる。

(20) 거뜨하다	(物が) 思ったよりずいぶん軽い
거뜨거뜨하다	(複数のものが) みな軽い
거뽀하다	かなり軽い
거뽀거뽀하다	(複数のものが) みなかなり軽い
그득하다	一杯だ
그득그득하다	なみなみに満ちている
글썩하다	(目に) 涙をためている
글썩글썩하다	涙ぐむ
길쭉하다	(幅のあるものなどが) やや細長い
길쭉길쭉하다	複数のものが皆やや細長い
까칠하다	やせて肌や毛につやがない
까칠까칠하다	ざらざらしている
꺼칠하다	かさかさしている
꺼칠꺼칠하다	表面が滑らかでない
날씬하다	すらりとしている
날씬날씬하다	複数のものがみなほっそりとしている

날카하다	柔らかすぎて垂れそうだ
날카날카하다	ぐにやぐにやしている
납작하다	平たい、平べったい
납작납작하다	複数のもがみな平べったい
뜨끈하다	非常に熱い
뜨끈뜨끈하다	非常に熱い、ほかほかだ
뜨끔하다	ちくりと痛い
뜨끔뜨끔하다	ちくちく／ひりひり／ずきずきする
말랑하다	(物が) やわらかい
말랑말랑하다	ふわふわしている
묵직하다	ずっしり重い
묵직묵직하다	いずれも皆ずっしり重い
물렁하다	ふにやと／くにやとしている
물렁물렁하다	ぶよぶよ／どろどろする
볼록하다	物の表面がいくらか膨れ上がっている
볼록볼록하다	あちこちふっくら膨らんでいる
뾰족하다	(物の先が) 細くなってとがっている
뾰족뾰족하다	複数のもが等しくとがっている
새콤하다	やや酸っぱい
새콤새콤하다	多くのものがいずれも酸っぱい、非常に酸っぱい
시큰하다	ずきんずきん痛む
시큰시큰하다	ずきんずきんする
짜릿하다	(身体に刺激を受けて) びりっとする／じいんとする
짜릿짜릿하다	びりびりする／じいんとする
폭신하다	非常に柔らかく弾力性があり暖かい／ふわふわしている
폭신폭신하다	ふわふわしている
헐렁하다	だぶだぶだ
헐렁헐렁하다	だぶだぶだ、ぶかぶかだ
후끈하다	顔や体がかっかとはてる
후끈후끈하다	ぼかぼか／かっかしている

(20) の例のような単一形語幹／反復形語幹の対がある場合、反復形は単一形の意味の強調、あるいは対象の複数性を意味する。

(21)a) 나무로 만든 긴 의자에 앉아 오징어 다리를 씹거나 아이스바를 먹으며 빳빳한 새 만화를 보는 맛이라니. (木製の長い椅子に座ってスルメの足を噛んだりアイスを食べながらぱりぱりしている新しいマンガを読むこととは。) 『ボンスニオンニ』

커다란 나무들만 빹빹한 숲 속은 몹시 어둡습니다. (大樹が密生している森の中はとても暗いです。) 『創作童話』

개똥이가 꿈을 꾸는 사이에 하늘에는 별이 충충합니다. (ケットンイが夢を見る間、空には星がきらきらと輝いています。) 『創作童話』

b) 그 늦은 시간에도 집 안은 온통 불빛으로 환했다. (遅い時間にも家の中は灯りで明るかった。) 『父』

자신도 놀란 듯 멍한 표정을 짓던 환유가 어색하게 웃으며 말했다. (自分も驚いたようできょとんとした表情を浮かべたファンユがぎこちなく笑いながら言った。) 『手紙』

아저씨는 콧등이 쫄해 오는 느낌 때문에, 랜스레 미경이의 등교를 재촉하고 맙니다. (おじさんはじいんと来たので、やたらミギョンに登校を急かせてしまいました。) 『創作童話』

캁하니 들어간 눈, 하루가 달리 김누렇게 변해가는 낮빛… (目がおちくぼんで精気がなく、日毎に黒みがかって黄色く変わっていく顔色…) 『父』

(21a) と (21b) は、それぞれ 1 音節反復形の語幹と 1 音節語幹に「-하다」が付いた例である。いずれも「-하다」型動詞にはほとんど見られないタイプの形式である。他の例を補えば次の通りである。

(22) a) 걸걸하다 (しわがれ声がかがらとして力強い)

끈끈하다 (べとべとする)

깔깔하다 (ざらざらしている)

결결하다 (ざらざらしている)

덤덤하다 ((言うべきときに) 黙っている)

눅눅하다 (湿っぽい)

뚝뚝하다 (ぶっきらぼうだ)

뚱뚱하다 (ぼっちゃりしている)

딱딱하다 (こちこちだ)

밋밋하다 (ほっそりしている)

밍밍하다 (水っぽい)

반반하다 (顔立ちが整っている)

멍멍하다 (呆然とする)

빹빹하다 (ぼそぼそしている)

뽕뽕하다 (どろっとしている)

뻘뻘하다 (こちこちにこわばっている)

얼얼하다 ((口の中が) ひりひりする)

쌀쌀하다 (よそよそしい)

쨍쨍하다 (かんかん照りつける)

짱짱하다 (頑丈でがっしりしている)

짐짐하다 (なんとなく気まずい)

징징하다 (気まずい)

축축하다 (じめじめしている)

촉촉하다 (しっとりしている)

탄탄하다 (がっしりしている)

퀴퀴하다 ((物が腐ったりして) 臭い)

팅팅하다 (ぶよぶよしている)

탱탱하다 (はちきれそうだ)

팍팍하다 (ばさばさしている)

튼튼하다 (丈夫だ)

팽팽하다 (ぴんと張っている)

팔팔하다 (びんぴんしている)

훈훈하다 (こじんまりしている)

핫핫하다 (焼けつくように暑い)

b) 멍하다 ((頭が) がんがん痛い)

뚱하다 (口数が少なく無愛想だ)

뜸하다 (まばらだ)

뻘하다 (ほの明るい)

뻘하다 (ほんのり明るい)	뻘하다 (呆然としている)
엎하다 (ばたっと倒れる)	허하다 (虚弱だ)
흰하다 (薄明るい)	

「-하다」に次いで生産性が高い接尾辞は「-스럽다」/sūrōpta/ であるが、使用頻度はそれほど高くない。大半は(23a)のように単一形オノマトペに付くが、(23b)のように1音節反復形を語幹とするものもいくつかある。多くは「-하다」型形容詞と交替する。

- (23) a) 가랑스럽다 (似つかわしくない) ⇔ 가랑맞다 (似つかわしくない)
 거드름스럽다 (見るからに尊大ぶっている) ⇔ 거드름피우다 (いばる)
 게정스럽다 (不平たらたらだ) < 게정게정 (ぶつぶつ)
 감쪽스럽다 (こましゃくれたところがある) ⇔ 감쪽하다 (こましゃくれている)
 끝금스럽다 (すっきりしている) ⇔ 끝금하다 (すっきりしている)
 끔찍스럽다 (むごたらしい) ⇔ 끔찍하다 (むごたらしい)
 능청스럽다 (しらじらしい) ⇔ 능청맞다 (しらじらしい)
 불통스럽다 (口の利き方がぶっきらぼうだ) < 불통불통 (ぶっきらぼうに)
 바지런스럽다 (見るからにまめめめしい) ⇔ 바지런하다 (まめめめしい)
 비아냥스럽다 (皮肉っぽい) ⇔ 비아냥하다 (皮肉っぽく言う)
 수선스럽다 (騒々しい) ⇔ 수선떨다 (しきりに騒がしくふるまう)
 시원스럽다 (さっぱりしている) ⇔ 시원하다 (すっきりしている)
 악착스럽다 (粘り強い) ⇔ 악착같다 (がむしゃらだ、粘り強い)
 앙상스럽다 (やせ衰えて見える) ⇔ 앙상하다 (やせ衰えて骨と皮ばかりだ)
 앙증스럽다 (かわいらしい) ⇔ 앙증하다 (小さいながらよく整っていてかわいらしい)
 억척스럽다 (がむしゃらだ) ⇔ 억척같다 (がむしゃらだ、粘り強い)
 엉뚱스럽다 (とんでもないようすだ) ⇔ 엉뚱하다 (とんでもない)
 엉큼스럽다 (腹黒い所がある) ⇔ 엉큼하다 (腹黒い)
 이지렁스럽다 (知らん振りしている) ⇔ 이지렁떨다 (わざととぼけるふりをする)
 주접스럽다 (ががつがつしている) ⇔ 주접떨다 (ががつがつする)
- b) 간간스럽다 (ねちねちしている) ⇔ 간간하다 (気難しくてねちねちしている)
 뻘뻘스럽다 (ずうずうしい) ⇔ 뻘뻘하다 (ずうずうしい)
 뻘뻘스럽다 (ずうずうしい) ⇔ 뻘뻘하다 (ずうずうしい)

オノマトペ形容詞を派生する接尾辞には、朴東根 (1997:93ff) によればその他に次のようなものがある。

(24) a) - 어ㅎ다 /öt'a/

- 둥그랗다 (まんまるい) < 둥글둥글 (まんまる)
 둥그렇다 ((大きく) まるい) < 둥글둥글 (まるまる)
 똥그랗다 (まんまるい) ⇔ 똥글똥글하다 (まんまるい)
 사느랗다 (やや冷たい) ⇔ 사늘하다 (ひんやりしている)
 서느랗다 (冷たい) ⇔ 서늘하다 (ひんやりしている)

b) - 맞다 /matta/

- 가랑맞다 (似つかわしくない) ⇔ 가랑스럽다 (似つかわしくない)
 능글맞다 (とてもずうずうしい) < 능글능글 (ずうずうしいようす)

능청맞다 (そらとぼけている) ⇔ 능청떨다 (そ知らぬふりをする)
 앙증맞다 (小さくかわいらしい) ⇔ 앙증하다 (小さいながらよく整っていてかわいらしい)
 징글맞다 (いやらしいほどしつこい) < 징글징글 (ひどく気味悪いようす)

c) -하다 /pta/

간지럽다 (くすぐったい) < 간질간질 (くすぐったいようす)
 깔끄럽다 (ざらざらしている) ⇔ 깔깔하다 (ざらざらしている)
 미끄럽다 (つるつるしている) < 미끈미끈 (つるつる／すべすべ)
 번지럽다 (つやつやしている) < 번질번질 (びかびか／てかてか)
 부드럽다 (やわらかい) < 부들부들 (感触が非常にやわらかいようす)
 뻘드럽다 (つやがあって滑らかだ) < 뻘들뻘들 (つやつや)
 시끄럽다 (やかましい) ⇔ 시끌시끌하다 (非常にやかましい／騒々しい)
 어지럽다 (目まいがする) < 어질어질 (くらくら)

d) -지다 /chida/

끈덕지다 (粘り強い) < 끈적끈적 (ねばねば／べとべと)
 아롱지다 (まだら模様だ) < 아롱아롱 ((点・紋様などが) まだらに)

e) ゼロ派生

거칠다 ((粒や目が) 粗い) < 거칠거칠 (がさがさ／ざらざら)
 까딱없다 (びくともしない) < 까딱까딱 (こっくりこっくり)
 꼼짝없다 (なすすべがない) < 꼼짝꼼짝 (もぞもぞ)
 꼬덕없다 (びくともしない) < 꼬덕꼬덕 (こっくりこっくり)
 둥글다 (丸い) < 둥글둥글 (まるまる)
 보풀다 (毛羽立つ) < 보풀보풀 (げばげば／もじゃもじゃ)
 삐뚤다 (傾いている) < 삐뚤삐뚤 (よろよろ／くねくね)
 비뚤다 (曲がっている) < 비뚤비뚤 (くねくね)
 서슴없다 (ためらわない) < 서슴서슴 (もじもじ)

5. ま と め

本稿では韓国語オノマトペの用言的用法について以下のことを明らかにしてきた。韓国語オノマトペが用言(動詞、形容詞)として用いられる場合、その用言オノマトペを派生する接尾辞は多様であるが、その中で最も生産的な接尾辞は「-거리다」/kōrida/、「-대다」/tæda/、「-하다」/hada/、「-이다」/ida/の4種である。

韓国語の用言オノマトペの派生過程は非常に単純で、オノマトペそれ自体あるいはその一部の要素に動詞化、形容詞化をもたらす接尾辞をつけることによりオノマトペ動詞、オノマトペ形容詞を作ることができるのである。オノマトペ動詞を派生する最も生産的な接尾辞は「-거리다」/kōrida/、「-대다」/tæda/、「-하다」/hada/、「-이다」/ida/であり、オノマトペ形容詞の場合は、ほとんどすべてにおいて接尾辞「-하다」/hada/によって派生する。

オノマトペ動詞を派生する接尾辞「-하다」は完全反復形、単一形、類音反復形のオノマトペ語幹に付いてオノマトペ動詞を派生するが、完全反復形に付くものが圧倒的に多い。「-하다」型オノマトペ動詞は単一形／完全反復形語幹の対が可能であり、完全反復形は動作の繰り返しや継続、単一形は一回だけの動作・現象を表わしている。

「-거리다」はオノマトペ動詞を派生する最も使用頻度が高い接尾辞である。辞書では「-거리다」を「繰り返す」意味を持つ接尾辞と定義しており、反復の意味をもつ「-거리다」には単一形オノマトペに付くのが普通である。また「-거리다」は1音節オノマトペに付かず、必ず1音節オノマトペの反復形に付き、母音で終わる

オノマトペ語基にも基本的には付かない。通常、「-거리다」と「-대다」は同様の使い方をすると見なされているが、これは「-거리다」と「-대다」の大きな違いである。

「-거리다」型オノマトペは動作の反復・継続を表わすので、「完全反復形オノマトペ+하다」のタイプとほぼ同様の意味をもち、かつ同数存在する。しかし、実際の使用頻度においては「-거리다」型が多いが、これは「完全反復形オノマトペ+하다」の使用頻度を低めることにつながり、さらには韓国語の反復形オノマトペの使用頻度も低めている原因であると考えられる。

「-대다」は辞書の定義や実際の使用例からみても「-거리다」と等価の接尾辞とみなされており、「-거리다」型と同様、単一形オノマトペに付いて動作の反復・継続を表わす。したがって、「-거리다」が付いたオノマトペはほとんど「-대다」に置き換えることができる。しかしながら、実際の使用頻度を見ると、「-거리다」が「-대다」の8倍以上の結果であった。これについては二つの理由が考えられる。まず、一つ目は、「-대다」型の表現は非標準語と見なされてきたためである。二つ目は「-거리다」に比べて「-대다」の方が若干否定的な意味を含んでいるため使うのを憚ったためではないかと思われる。

「-이다」は「-대다」に比べると使用頻度が高い。「-이다」は「ㄷ」/k/、「ㅇ」/ng/、「ㄹ」/l/で終わる単一形のオノマトペに付いて「-이다」型オノマトペ動詞を形成するが、「ㄷ」/k/で終わるオノマトペが最も多く、全体の75%以上にのぼる。

「-하다」は動詞、形容詞どちらも形成する接尾辞で、「-하다」は大多数のオノマトペ形容詞を作る。また、実際の使用頻度においても「-하다」動詞に比べて「-하다」形容詞の方が圧倒的に多いことから「-하다」型は形容詞を形成する傾向が強いと言えよう。また多くの場合、「-하다」型オノマトペ形容詞は単一形語幹／反復形語幹との対が可能であり、反復形は単一形の意味の強調、対象の複数性を意味する。また1音節反復形の語幹と1音節語幹に「-하다」が付く場合もあるが、「-하다」型動詞には見られないタイプである。「-하다」に次いで生産性の高いオノマトペ形容詞形成接尾辞は「-스럽다」/sûrôpta/であるが、使用頻度はあまり高くない。大半は単一形オノマトペに付くが、1音節反復形を語幹とするものもいくつかあり、多くは「-하다」型形容詞と交替できる。

注

- 1) 本稿は、李殷娥(2001)の第2章の一部を大幅に加筆訂正したものである。
- 2) オノマトペを語幹とする「하다形容詞」の副詞形「-하게」、「-히」、「-니」、「-이」
- 3) 動詞と形容詞の両方に用いられるものを含んだ語数である。
- 4) 『한국전래동화(韓国伝来童話)』 이효정(イ・ヒョソン)編(2005)지경사:ソウル、以下同じ。
- 5) 人間の笑い声や小鳥がさえずる声を表わすオノマトペ語基に付く場合がある。
히히거리다(へへと笑う), 호호거리다(ふふと笑う), 제제거리다(小鳥がさえずる)
- 6) 『2005 이상문학상 작품집(2005 李箱文学賞作品集)』 문학사상사:ソウル
「표정관리 주식회사(表情管理株式会社)」 이만교(イ・マンギョウ)pp.192-240
- 7) 稿者が調査したところ、뒤죽박죽이다(ごちゃごちゃだ)のような類音反復形オノマトペを語幹とする次のような使用例がある。그토록 오랫동안 그리던 그 얼굴이었건만 나는 무안하기도 하고 울고 싶기도 하고 이자리에서 그만 도망쳐버리고 싶은 뒤죽박죽인 기분이었다.(それほど長い間会いたかった顔だっただけ、私は照れくさく、泣きたかったからこの場から逃げたいごちゃごちゃとした気分だった。) 『bonsunonni』
- 8) 教学社出版部編(1997)『初等学生学習国語辞典』教学社:ソウル
金星出版社編(2001)『初等国語辞典』金星出版社:ソウル
延世大学校言語情報開発研究院編(2002)『東亜延世初等国語辞典』斗山東亜:ソウル

参考文献

- 青山秀夫 (1974) 「朝鮮語の派生擬態語試考」『朝鮮学報』第72輯 朝鮮学会
—— (1992) 「象徴語の一部の派生接尾辞について」『朝鮮学報』第145輯 pp.25-32
李殷娥 (1998) 「日本語と韓国語のオノマトペに関して—反復形式を中心に—」『国際開発研究フォーラム』第10号 pp.73-88
—— (2001) 『日本語と韓国語のオノマトペに関する対照研究』名古屋大学大学院国際開発研究科博士学位論文
寛寿雄・田守育啓 (1993) 『オノマトピア—擬音・擬態語の楽園』勁草書房
田守育啓・ローレンス・スコウラップ (1999) 『オノマトペ—形態と意味—』くろしお出版
西尾寅弥 (1980) 「擬音語・擬態語+する」の形式について『言語と文学』(群馬大学紀要) 20

野間秀樹 (1991) 「朝鮮語のオノマトペー擬声擬態語と派生・単語結合・シンタックス・テキストについてー [派生、合成語、使用頻度] 『学習院大学言語共同研究所紀要 14』 pp. 75-88

韓国語文献

- 朴東根 (パク・トンゲン) (1997) 『현대국어 흉내말의 연구 (現代韓国語のまねことばの研究)』 (建国大学校国文科博士学位論文)
- 송문준 (송문·문준) (1988) 「소리흉내말의 씨가름에 대하여 (擬声語の品詞分類について)」 『한글 (ハングル)』 200 한글학회 (ハングル学会) pp.139-163
- 宋喆儀 (1992) 『국어의 派生語形成研究』 国語学会
- 徐尚揆 (1992) 「현대 한국어의 시능말의 문법적 기능에 대한 연구-풀이말과의 결합관계를 중심으로- (現代韓国語のオノマトペの文法的機能に関する研究-用言との結合関係を中心に-)」 『朝鮮學報』 149 輯 朝鮮學會 pp.63-192
- 신현숙 (신·현숙) (1986) 『의미분석의 방법과 실제 (意味分析の方法と實際)』 한신문화사: 서울
- 채완 (채·완) (2003) 『한국어의 의성어와 의태어 (韓國語의 擬聲語와 擬態語)』 서울대학교출판부

参考資料

- 国立国語研究院編 (1999) 『標準国語大辞典』 斗山東亜: 서울
- 教学社出版部編 (1997) 『初等学生学習国語辞典』 教学社: 서울
- 金星出版社編 (2001) 『初等国語辞典』 金星出版社: 서울
- 박용수 (박·용수) (1989) 『우리말 갈래사전 (韓國語分類辭典)』 한길사: 서울
- (1994) 『새우리말 갈래사전 (新韓國語分類辭典)』 서울대학교출판부
- 延世大学校言語情報開發研究院編 (1998) 『延世韓國語辭典』 斗山東亜: 서울
- (2002) 『東亜延世初等国語辭典』 斗山東亜: 서울
- 油谷幸利他編 (1993) 『朝鮮語辭典』 小学館
- 李基文監修 (1989) 『동아 새국어 사전 (東亞新國語辭典)』 斗山東亜: 서울

出典一覧

- 『그 남자네 집 (彼の家)』 박완서 (박·완서) 著 (2004): 서울
- 『봉순이 언니 (ボンヌニオンニ)』 공지영 (콘·지영) 著 (1998) 푸른숲: 서울
- 『아버지 (父)』 김정현 (김·정현) 著 (1996) 문이당: 서울
- 『2005 이상문학상 작품집 (2005 李箱文學賞作品集)』 문학사상사: 서울
- 「표정관리 주식회사 (表情管理株式会社)」 이만교 (이·만교) pp.192-240
- 「아기 부처 (小仏)」 한강 (한·강) pp.74-132
- 『제 3 회 우수 창작동화 20 (第 3 回優秀創作童話 20)』
- 최은섭 (최·은섭) 他著 (1996) 대교출판: 서울
- 『제 8 회 우수 창작동화 20 (第 8 回優秀創作童話 20)』
- 강정훈 (강·정훈) 他著 (2001) 대교출판: 서울
- 『제 9 회 우수 창작동화 20 (第 9 回優秀創作童話 20)』
- 길지연 (길·지연) 他著 (2002) 대교출판: 서울
- 『편지 (手紙)』 권형술 (권·형술) 著 (1997) 바다출판사: 서울
- 『한국전래동화 (韓國傳來童話) 上·下』 지선옥 (지·선옥) 編 (1995) 바른사: 서울
- 『한국전래동화 (韓國傳來童話)』 이효성 (이·효성) 編 (2005) 지경사: 서울